

学習心理学			単位数	履修方法	配当年次
			2	R or SR	2年以上
科目コード	FH3512	担当教員	柴田 理瑛		



■科目の内容

心の科学である心理学は、近年めざましい発展を遂げ、研究領域も大きく広がってきています。心理学において、「学習」は、「経験による行動の変化、あるいは行動の可能性の変化」と定義されています。学習心理学は、このような経験による行動の変容を対象とする研究領域です。学習心理学の研究には、主として動物を対象として行われた条件付けの研究と、人間の記憶の研究という大きな二つの流れがありました。この二つの流れを学ぶことを通じて、私たちの行動がどのような要因の影響を受けるのかを包括的に理解すること、そして学習心理学の応用的成果に関しても理解を深めることが本科目の主な目的です。

■到達目標

- 1) 学習心理学の代表的な研究について内容を説明できる。
- 2) 学習心理学の応用的な研究について内容を説明できる。

■教科書

篠原彰一著『学習心理学への招待―学習・記憶のしくみを探る（改訂版）』サイエンス社、2008年
（最近の教科書変更時期）2008年 4 月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	学習心理学の領域（1章）	学習の定義や学習心理学の起源について学ぶことで、学習心理学の特徴を理解する。 キーワード：行動主義、認知論、無意味綴り、節約法、再学習法、問題箱、試行錯誤、古典的条件付け、条件反射、無条件反射	学習心理学と他領域の研究視点の違いを理解し、特色を説明できるようにしましょう。学習心理学における様々な理論の変遷について理解しておく、後の学びにおいて、研究者が提唱する理論やモデルが「なぜ」「どのように」変化したのかについての理解が容易になるでしょう。
2	古典的条件付け（2章）	古典的条件付けに関連する代表的な研究例を学びながら、その特徴と限界を理解する。 キーワード：中性刺激、消去、自発的回復、条件刺激、無条件刺激、般化、弁別、時間的接近、随伴性、嫌悪療法、系統的脱感作法	生体の刺激に対する反応は経験を通して変化します。この種の反応の変容の基礎にある、古典的条件付けについて説明できるようにしましょう。梅干の写真を見るだけで唾液があふれるという日常の体験を古典的条件付けの観点から考察してみましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
3	オペラント条件付け (3章)	オペラント条件付けに関連する代表的な実験例を学びながら、その特徴と限界を理解する。 キーワード：オペラント条件付け、スキナー箱、強化、強化子、学習性無気力、迷信行動	生体はある行動が成功すればその行動をとり続け、失敗すればまた別の行動をとります。3章では、2章で学んだ行動の受動的な変化ではなく、経験による行動の自発的な変化について学びます。公園で人を見ると寄ってくるハトは、どのようにヒトから餌をもらうことを学習したのかについて考えてみましょう。
4	強化と行動 ① (4章4.1～4.2節)	ある種の行動をとったときの結果に応じて、その行動が強化される仕組みを理解する。 キーワード：正の強化、負の強化、罰、オMISSION、正の強化子、負の強化子、強化スケジュール、連続強化、間欠強化	ある行動に伴って報酬が与えられると、その行動の頻度は高くなります(強化)。学習された行動を促進あるいは抑制する刺激や、効果的に学習を生じさせる呈示スケジュールについて学びましょう。本章を通し、なぜギャンブルに依存しやすいのかについて考えてみましょう。
5	強化と行動 ② (4章4.3～4.5節)	強化スケジュールの応用や嫌悪刺激を用いた条件付けにおける強化の特徴、行動強化の背景にある理論を学ぶ。 キーワード：並立スケジュール、回避学習、罰、動因低減説、プレマックの原理	ある行動をとって、不快な刺激を回避できると、その行動の頻度は高くなります(負の強化)。このような回避学習について、代表的な先行研究や理論に触れながら、様々な行動の強化について整理し、説明できるようになりましょう。
6	条件付けの制約 (5章)	条件付けにおいて生得的な要因を考慮する必要性について、代表的な研究例に触れながら学ぶ。 キーワード：刷り込み、臨界期、生物学的制約、味覚嫌悪学習、種に固有の防衛反応	これまでの章では行動は経験によって変化することを学んできました。この章では、学習によって全ての行動が獲得できるわけではなく、学習が生得的な要因によって制限されることについて理解しましょう。
7	一時的な記憶 (6章)	短期記憶やワーキングメモリといった学習心理学の重要な概念について学ぶ。 キーワード：符号化、保持、検索、感覚記憶、両耳分離聴、短期記憶、長期記憶、マジカル・ナンバー7±2、多重貯蔵庫モデル、系列位置曲線、初頭効果、ワーキング・メモリー	記憶は主に一時的な記憶と長期的な記憶に分けられると考えられています。本章では、一時的な情報の保存に関して、短期記憶やワーキングメモリといった概念について説明できるようになりましょう。
8	長期記憶の多様性 (7章)	長期記憶の区分を理解し、長期記憶の多様性について学ぶ。 キーワード：エピソード記憶、意味記憶、手続き記憶、宣言記憶、潜在記憶、顕在記憶、プライミング、展望記憶、表象、メタ記憶	本章では、長期記憶について学びます。長期記憶の様々な下位分類について、整理しながら学習することが学びのポイントです。顕在記憶を潜在記憶の違いはどこにあるのでしょうか？自分なりに考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
9	長期記憶への取り入れ (8章)	記憶の長期的な保持に関わる要因について学ぶ。 キーワード：集中学習、分散学習、自由再生、分散化効果、チャンク、対連合学習、フラッシュバルブ記憶、スキーマ、処理水準説	記憶の定着を促進する分散化効果、チャンク化、対連合学習といったキーワードについて理解しましょう。さらに、特に努力せずに記憶が定着する場合や、日常目にするものの記憶について学ぶことで、情報が長期的に残って行く要因について自分なりに考察しましょう。
10	保持と忘却 ① (9章9.1～9.2節)	記憶の忘却の特徴について代表的な研究例に触れながら学ぶ。 キーワード：エビングハウスの忘却曲線、節約率、不使用説、減衰説、干渉説、反応競合	人の記憶とコンピュータの記憶の最も異なる特徴は、ヒトはものを忘れるということです。忘却に関連した代表的な研究例を通して、忘却の過程や要因について説明できるようになりましょう。
11	保持と忘却 ② (9章9.3～9.4節)	記憶の変容について代表的な研究例に触れながら学ぶ。 キーワード：事後情報効果、偽りの記憶、幼児期健忘	私たちが経験したことを正確に記憶できることは少なく、むしろ記憶の内容が事実と異なる場合も多々あります。このような現象を説明する理論について、記憶の再構成や記憶の分布といった観点から整理して学習することが学びのポイントです。
12	検索 (10章)	過去の記憶を想起すること（検索）についての諸現象を学び、記憶についての理解を深める。 キーワード：再生、手がかり再生、再認、再認の失敗、気分依存効果、気分一致効果	ここでは、過去の経験を思い出すこと（検索）について学びます。再生や再認といった実験手法の確立から、生成再認理論、符号化特定性原理といった代表的な理論について説明できるようになりましょう。
13	学習と思考 (11章)	学習と思考の関係について、推理や類推の観点から学ぶ。 キーワード：演繹推理、帰納推理、推論、概念学習、プロトタイプ、因果関係、類推、問題解決	私たちが自分で経験できる範囲には限りがあるので、私たちは個々の経験・事象から共通の一般性を引き出すことによって知識の幅を広げます。本章では、推理や類推、問題解決といった高度な学習の特徴について理解しましょう。
14	技能① (12章12.1～12.2節)	日常生活における様々な活動においてみられる技能の学習について学ぶ。 キーワード：運動技能、認知技能、知覚技能、連合、認知、自律、離散課題、連続課題、フィードバック、結果の知識、集中学習、分散学習	スポーツや楽器の練習をすると、初めは難しかったことも徐々にできるようになっていきます。技能とはこのように、練習を通して習得される行動様式を指します。ここでは特に、運動技能の習得について理解しましょう。
15	技能② (12章12.3～12.6節)	認知や知覚技能の習熟について学ぶ。 キーワード：認知技能、知覚技能、閉ループ理論、開ループ理論、ベキ関数、転移	暗算などの認知的な側面が重要である認知技能の習得、物体の細部の弁別に関わる知覚技能の習得について学び、前後の学習間で生じる転移について説明できるようになりましょう。

■レポート課題

1 単位め	まず、無条件反応、無条件刺激、条件反応、条件刺激などという条件づけの専門用語の意味をそれぞれ説明しなさい。次に、「古典的条件づけ」と「オペラント条件づけ」とは何かを述べなさい。そして、「条件づけ」の「一般原則」とその生物学的制約について例をあげて考察しなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web解答可
2 単位め	学習心理学の知識を応用してください。 持込み不可の試験に合格したい時に効果的な記憶力を高める方法と忘却を防ぐ方法とを具体的に述べなさい。

■アドバイス

1単位め アドバイス

特に教科書の第1章から第5章までがレポート課題に関係します。この教科書にはたくさんの図表が使用されています。心理学では図表を通して研究内容や実験結果を理解することが求められることが頻繁にありますので、図表にもきちんと目を通しながら学習を進めてください。

最初に第1章「学習心理学の領域」を読んで「学習とは何か」を学びましょう。その後、第2章「古典的条件づけ」と第3章「オペラント条件づけ」を読みましょう。第2章では、レポート課題に関係する専門用語が登場しますので、注意しながら読み進めてください。第3章まで読み進めたら、一度「古典的条件づけ」と「オペラント条件づけ」の相違点についてまとめてみましょう。レポートがまとめやすくなると思います。その後、第4章「強化と行動」と第5章「条件づけの制約」を読んでください。条件づけの生物学的制約に関しては第5章を参照してください。

1単位めのレポートでは、複数の専門用語解説が求められます。たくさんの情報にある一定量にまとめて、わかりやすく、簡潔に表現することは、心理学を学ぶうえで非常に重要です。そのため、1単位めのレポートを評価するときは、指定文字数（2000字以内）で、課題内容にそった記述が、わかりやすく、明確になされているかどうか注目して評価したいと思います。

2単位め アドバイス

特に教科書の第6章から第10章までがレポート課題に関係します。1単位めと同様、心理学では図表を通して研究内容や実験結果を理解することが求められることが頻繁にありますので、図表にもきちんと目を通しながら学習を進めてください。

最初に第6章「一時的な記憶」を読んで「条件づけと記憶」のつながりを理解しましょう。その後、第7章「長期記憶の多様性」と第8章「長期記憶への取り入れ」を読みましょう。レポートに関係する事柄（特に記憶力を高める方法）は、第8章で中心的に記述されています。その後、第9章「保持と忘却」と第10章「検索」を読んでください。レポートに関係する事柄（特に忘却を防ぐ方法）は、第9章が参考になると思います。

2単位めのレポートでは、教科書に書かれている学習の原則や現象を自分なりにまとめ、応用するように工夫して頂きます。教科書を読み進めるときには、上述したレポート課題に関係しそうな部分に注意するとレポートが書きやすくなると思います。1単位めのレポートと同様、指定文字数（2000字以内）で、課題内容にそった記述が、わかりやすく、明確になされているかどうか注目して評価したいと思います。

す。

■科目修了試験 評価基準

試験100%で評価します。具体的には、試験のテーマに沿って、教科書で学んだ内容から関連のあるキーワードを自分なりに選択し、論述できているかという観点から評価します。

■参考図書

山内光哉・春木豊編著『グラフィック学習心理学 行動と認知』サイエンス社, 2001年

森敏昭・岡直樹・中條和光著『学習心理学 (心理学の世界 基礎編2)』培風館, 2011年